

# 会 議 録

## 1 会議名

令和4年度第1回上越市食育推進会議

## 2 議事（公開・非公開の別）

- (1) 上越市食育推進会議及び第4次上越市食育推進計画について（公開）
- (2) 令和4年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）の進捗状況について（公開）
- (3) 令和5年度アクションプラン（案）について（公開）

## 3 開催日時

令和5年2月16日（木）午後2時から4時

## 4 開催場所

上越文化会館 大会議室

## 5 傍聴人の数

0名

## 6 出席者氏名（敬称略、傍聴人を除く。）

- ・委員：松井千鶴子、小林綾子、泉真理、田中清美、飯塚恵子、王鑫、鳥越香菜子、金子修一（山宮齊委員代理）、菘輪若奈、亦野潤一、信田紘基、土井麻美、松井和代、大山仁、空周一
- ・事務局：農政課：栗和田課長、高橋副課長、中里主事、宮澤主事  
健康づくり推進課：大石上席栄養士長、保育課：渡邊副課長  
上越ものづくり振興センター：勝山副所長、農村振興課：廣田副課長  
教育総務課：井守栄養士長、学校教育課：古川副課長  
社会教育課：福山副課長

## 7 発言の内容

### （1）開会

#### 【事務局：高橋副課長】

- ・上越市食育推進会議規則第2条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告。

#### 【事務局：栗和田課長】

- ・この度の上越市食育推進会議委員の任期満了に伴い、新たに、皆様から快く委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。皆様には2年間、市の食育を推進していくために、そ

れぞれのお立場からのご意見、ご助言をお願いしたい。

- ・食育は一生涯にわたって健全な食生活の実現、心身の健康増進、豊かな人間性の形成に寄与するものであり、これまでの食育推進の取組の成果として、学校や保育園現場における食育が充実するなど、一定の進展が見られたところである。
- ・コロナ禍など社会を取り巻く情勢や市民意識・生活環境の変化などから、「食」への関心は高まってきているものの、令和3年度に行った「食育市民アンケート」の結果では、朝食の欠食が改善されていないほか、栄養バランスに配慮した食事の実践が十分に浸透していないなど、家庭を中心とした食育の「実践」は、未だ十分とは言えない状況にある。
- ・これまで以上に食育推進活動を充実させ、食育が地域に根差し、継続的な活動として定着させていくことが何より肝要あり、この度、「食育の実践の定着に向けた取組の強化」をキーワードに、令和4年度から8年度までの5か年を計画期間とする、第4次上越市食育推進計画を策定した。
- ・本日は、この第4次計画に基づく上越市食育推進実施計画、いわゆるアクションプランの進捗状況のほか、令和5年度のアクションプラン（案）をご説明する。食育の推進に関し、忌憚のないご意見を頂戴し、食育活動を実践されている皆様とともに、上越市の食育を更に推進していきたいと考えている。

## (2) 委嘱状交付

- ・委員を代表し、松井千鶴子委員に空農林水産部長が委嘱状を交付。任期は令和4年7月26日から2年間であることを確認

### 【事務局：高橋副課長】

- ・委員の皆様から、所属とお名前、簡単に携わっている食育活動等についてご紹介いただきたい。

<各委員自己紹介>

### 【事務局：高橋副課長】

- ・市食育推進担当課を紹介

### (3) 会長選出

#### 【事務局：高橋副課長】

- ・上越市食育推進条例第7条第4項により、会長を委員の互選により定めるため、委員に発言を求める。

#### 【亦野委員】

- ・事務局推薦案はないか。

#### 【事務局：高橋副課長】

- ・事務局案として、会長に上越教育大学学校教育研究課教授の松井千鶴子委員を推薦。出席委員から賛同を得たことから、松井委員を会長とすることを確認。
- ・上越市食育推進会議規則第2条第1項では、「会長が議長となる」とあることから、松井会長に議長を務めていただきたい。

### (4) 議事

#### ① 上越市食育推進会議及び第4次上越市食育推進計画について

#### 【松井会長】

- ・しばらくの間、議長を務めさせていただく。初めに、「4 議事(1) 上越市食育推進会議及び第4次上越市食育推進計画について」、事務局から説明願いたい。

#### 【事務局：栗和田課長】

- ・資料No.1 及び第4次上越市食育推進計画に基づき説明（説明省略）

#### 【松井会長】

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。
- ・上越市の食育推進事業のPDCAサイクルは1年で考えるのか、それとも4年で考えるのか。

#### 【事務局：栗和田課長】

- ・基本的には、毎年度アクションプランを食育推進会議の中で評価・検証していただくので1年で考えている。
- ・食育市民アンケートについては、2年に1度の実施となるので、実施した年の結果をアクションプランに反映することになる。

#### 【松井会長】

- ・令和4年度が終わるが、令和5年度のアクションプランが修正されて出されるのか。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・この後の議事で、令和4年度のアクションプランの状況を報告させていただいた上でご意見をいただく。本来ならば、意見を受けて令和5年度のアクションプランを作成する流れになるが、時期的な問題で、この後、令和5年度のアクションプラン（案）もあわせて説明させていただき、成案にする際には、本日委員の皆様からいただいた意見を反映し作成したい。

**【松井会長】**

- ・それでは、本日委員から意見が出れば、令和5年度のアクションプランに反映されるものもあるということでしょうか。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・予算が伴うものについては、令和5年度すぐに実施できないものもあるが、対応できる部分についてはアクションプランに反映したい。

**② 令和4年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）の進捗状況について**

**【松井会長】**

- ・「4 議事(2) 令和4年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）の進捗状況について」、事務局から説明願いたい。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・資料No.2に基づき説明（説明省略）
- ・全体説明のほか、第4次食育推進計画の指標項目である「適正体重を維持している市民の割合」の目標値を変更することを説明

**【松井会長】**

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。
- ・また、「適正体重を維持している市民の割合」の目標値を変更することについて、ご了承いただけるか。

＜委員全員意見・質問等なし＞

- ・「適正体重を維持している市民の割合」については、委員から承知いただいたことから、目標値を変更することを確認

**【事務局：高橋副課長】**

- ・資料No.3に基づき説明（説明省略）

**【松井会長】**

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

**【松井委員】**

- ・資料No.3の37ページについて、私どもが行っている部活動の支援の中で、「食べて強くなろう」という講座がある。これを令和4年度に「みんなの食育活動掲示板」に掲載しようと思っていたが忘れていた。事務局に掲載を依頼する方法を教えてください。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・「みんなの食育活動掲示板」の活用について、令和4年度当初に、関係部門に文書をお送りしたが、それだけであったため、今後情報収集のやり方を含めて改善していかなければならない。内容も固定化されていて、限られた方からの情報提供になっているため、改善していきたい。

**【松井委員】**

- ・12時になると、LINEで市からお知らせがあるので、「みんなの食育活動掲示板」に掲載する情報についても定期的に募集の周知があるといい。
- ・49ページについて、「店舗の経営方針の転換等により、認定店を辞退する店舗がある」とあるが、どのような理由で認定店を辞退するのか。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・マイナスな理由で辞退されるお店はない。経営方針で少し苦しくなってきたというものである。

**【金子委員】**

- ・上越市特有の健康状態について、どのような問題点があって、市として食育を通してどういったメッセージを送りたいのか。例えば、高血圧の方が多いということであれば、塩分を控えよう、野菜をたくさん摂ろうなどが考えられる。食育の対象の年齢層とそれに対する内容について教えていただきたい。

**【健康づくり推進課：大石上席栄養士長】**

- ・市では、「健康プロジェクト」というものを立ち上げている。その中で、3歳児と小学5年生の肥満が増加傾向にあることから、「子どもの肥満の減少」と、メタボリックシンドローム予備軍が増えていること、高血圧でも特に拡張期血圧が全国と比べて約2倍高く、脳血管疾患で倒れる方がいることから「働き盛り世代の寝たきり予防」を行っている。高齢期では、「介護予防・重症化防止の推進」という形で、中重度の要介護度3

～5については、県及び全国と比べて上越市は高い傾向にある。

- ・その原因の一つは、プロジェクトの課題として挙げている肥満と高血圧で、高血圧であれば減塩、野菜の摂取について取組を始めている。
- ・食環境整備ということで、JAえちご上越や市内に本社があるスーパーに働き掛けながら、環境整備という形で減塩に取り組んでおり、野菜の摂取も少ないことから「野菜の摂取」という言葉を発信している。

### ③ 令和5年度アクションプラン（案）について

#### 【松井会長】

- ・「4 議事(3) 令和5年度アクションプラン（案）について」、事務局から説明願いたい。

#### 【事務局：高橋副課長】

- ・資料No.4に基づき説明（説明省略）

#### 【松井会長】

- ・今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

#### 【信田委員】

- ・地産地消推進の店「プレミアム認定店」に認定されているが、横並びで仲間をもっと作っていきたいと思っている。また、具体的に活動の仕方が分からないので、スタッフに落とし込む内容を教えていただきたい。

#### 【事務局：栗和田課長】

- ・プレミアム認定店については、今年度からスタートし、活動が整理できておらず申し訳ない。当初認定店の数を増やすことを目標としていたが、地産地消推進会議委員から、数よりも内容を充実すべきとのご意見をいただいたため、しっかり整理して、プレミアム認定店の皆様にお知らせする。これからその内容を踏まえ、地産地消推進の店の中からプレミアム認定店になっていただくところを増やしたい。

#### 【信田委員】

- ・あるるんの杜の中で、三つ星惣菜店として、地元の食材を使った惣菜を作っている。加工品も最近挑戦しており、上越産のものをより多くの方に知っていただきたいということもありながら、食品ロスに取り組む姿勢を誰かがしていかなければならないと思っている。あるるんの杜での私たちの活動は、農家と一体となった活動で、これを地産地消

推進の店どころか「地産地消しかしていない店」として発展させていきたい。情報発信にご協力をいただきたい。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・市としては、地産地消を広く知っていただきたいということで、プレミアム認定店には「地産地消推進の店マイスター」がいて、マイスターから口伝で地産地消を広めてもらうという目的がある。しかし、それだけだと限られる部分もあるため、インスタグラムを市農林水産部で立ち上げ、広く発信していきたいと考えていたところだが、なかなか頻繁に発信できず、今後、よりよい発信方法を聞きながら対応していきたいのでご教示いただきたい。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・市農村振興課で、農業者と食品関連事業者をつなぐ取組を行っている。生産者である農家と地元の飲食店、スーパーを含めた食品関連事業者のマッチングに取り組んでいる。こういったところからも地産地消を発信していきたいと思っている。
- ・第4次計画の中でも、デジタルツールによる情報発信が大きなテーマでもあるので、SNSを活用して若い方を含めて広くPRできる方法を考えていきたい。

**【空委員】**

- ・6月は食育月間ということで、毎年6月に食育に関するイベントを実施している。昨年と一昨年は無印良品 直江津で実施したが、情報発信の場として、インターネットやSNSを活用し、重点的な期間や機会に発信することを強化したい。
- ・現在、市内で食育に取り組まれている方が多くいるので、PRしたいことがあれば、6月のイベントの際に情報を提供していただければ、紹介することができるので、年1回のよいタイミングを逃さずに発信できれば、マスコミに来てもらって取り上げてもらうこともできる。
- ・例年、職員が実施内容を工夫して「食べ物マジックショー」や「けしごむはんこ教室」など、子どもたちや家族連れが寄りやすいものを考えている。色々な世代の人たちに興味を持ってもらえるように情報が集まればいいと思っている。
- ・先ほど、食育活動掲示板でお互いに募集と情報提供のタイミングが合わなかったという話があったが、前回の食育推進会議でたくさんの方が食育活動をしているのにも関わらず、ぼんやりしていて取組が上手く伝わらないもどかしさがあることを意見としていただき、私たちもやってはみたものの定着させるには改善が必要であり、皆様が現在行っ

ていることを集約して発信できればと思う。是非ご相談いただきたい。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・6月のイベントは来年度も計画しているので、委員の皆様にもご連絡させていただき、より市民の皆様にも来ていただけるようなものにしたい。

**【松井会長】**

- ・イベントにただ参加するだけでなく、主催者と一緒に何かしないかという市からの案内はあるのか。

**【空委員】**

- ・イベントを開催する際は、1週間前にマスコミに情報提供という形で発信しているので、1か月前の5月中にこんなものを置けないかという連絡がほしい。案内が出せるかどうかは分からないが、委員の皆様に対して、イベントの日時が決まり次第、事前のアナウンスはできるのでご案内したい。

**【王委員】**

- ・食育市民アンケートを2年に1回の実施としたのはどういった理由からか。また、現在上越市の人口はおよそ20万人だが、アンケートの対象者は3,000人で、もう少し増やしたらどうか。子どもと大人では、アンケートの内容を変えた方がよいと思うがどうか。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・2年に1回とした理由については、毎年実施しても結果があまり変わらないということがあり、2年に1回の実施で現状を把握している。
- ・アンケート項目については、関係部局と相談しながら決めている。
- ・各世代3,000人を無作為抽出し、令和3年度では、回収できたのが1,280人、回収率42.7%で半分戻ってきていない。無作為にお願いしており無理に提出してもらうことはできないため、半分くらいであればデータはつかめるのではないかと考えている。また、アンケート結果を施策に反映させている。
- ・市民アンケートとは別に、令和3年度は、市内の高校生を対象にアンケートを実施した。こちらは学校を通してお願いし、1,687人に配付して1,527人分回収、回収率は90%であった。市民アンケートと高校生アンケート結果を比較すると、大体同じような調査項目であったが、あまり大きな差はなかった。とは言え、違う部分も当然あるため、市民アンケートとこれから社会に出ていく高校生のアンケート結果を分析してアクションプランに反映し取り組んでいる現状である。



### 【王委員】

- ・市民アンケートと高校生向けアンケートで回収率に差があるが、結果にあまり差がないということで、質問内容を変えたらどうか。例えば、高校生向けには、「おふくろの味が分かりますか」という設問などはどうか。今の子どもたちは冷凍食品をよく食べているので、おふくろの味が分からない子が多いと思う。

### 【事務局：栗和田課長】

- ・令和3年度は、市民向けと高校生向けで同じような設問であったが、ご意見を参考にして、令和5年度は現在の状況にあったアンケート内容を考えたい。また、市民アンケートの回収率についても、より多くの方から回答いただけるような方法を考えていきたい。

### 【信田委員】

- ・食育推進計画の基本方針4について、「学校給食で地場産物（青果物）を使用する割合」の目標値を令和8年度に20%とするとあるが、どのように進めていくのか。

### 【事務局：栗和田課長】

- ・学校給食の地場産野菜の使用率を上げることを、大きな目標として取り組んでいる。天候不順により、もともと使用する予定であったものが使用できなくなることもある。まずは、現在、若手でも野菜づくりを頑張っている農家の方がいらっしゃるので、JAと協力しながらお声掛けさせていただきたい。天候不順もあるが、安定供給ができるくらいに生産量を増やし、それを使用してもらえる仕組みづくりを進めていきたい。令和5年度は、園芸の部会等や若手農業者の方とも意見交換をしながら、まずは生産量を増やしていきたい。

### 【信田委員】

- ・具体的な生産量を伸ばす方法は色々あると思うが、私は、農家と密接な付き合いがあり、作るだけ作っても売れないかもしれない。そのときが怖いなど、様々な問題があることを聞いている。
- ・認定こども園で、小さな子どもたちに地元の食材がどんな状況かを教えるために、農家へバスで出向いて、「これはこういう風に食べるとおいしい」、「これはもう少し寝かせるとおいしい」ということを教えている。
- ・私が関わっている園では、給食でこんなに地元の食材を使っているのに、小学校に上がったときに衝撃を受けて給食を食べなくなるのではないかという恐怖がある。この春卒園する子たちが給食を楽しみに学校へ行くのに、全く違うものを食べるということに恐

怖を感じている。

- ・野菜をたくさん作ることができない理由として、消費や処理する方法が難しいということをお農家から聞いている。そこで提案だが、地産地消推進の店で、食品ロスを助けてあげる活動をするのはどうか。私もいいことをしたいと思ってこの活動を始めたが、子どもたちが小学校に上がる問題も含めて、このような提案をさせていただいた。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・安定していないと経営的に厳しいというのは生産者として当然あり、学校給食はある程度量が決まっているため、学校給食には出せる。どうしても農業は自然に左右されるが、信田委員がおっしゃったように農家の売り先として地産地消推進の店があるのは理想だと思うので、直売所も含めて連携して、農家が生産したものを地産地消推進の店で使える仕組みを作りたい。
- ・学校給食の地場産物の使用率を上げるため、生産者の皆さんと学校側も含めて意見交換をさせていただきたいと思う。

**【松井委員】**

- ・以前から食育推進会議の委員を務めているが、学校が規格外の地場産物を使ったらどうかということで、栄養士と先生で話し合い、規格外のじゃがいもとにんじんを使っていると思う。そういった少しずつの努力は皆さんに知っておいていただきたい。その話が出たときも委員で、この会議はこういうためにあるのだと感激した。この会議の中で、連携して課題解決に向けて一歩ずつ進んでいきたい。

**【土井委員】**

- ・学校給食では、現在、月に1回ふるさと献立を実施している。地場産物もなるべく使えるように、合併前上越市だと約2か月前に献立を作るが、JAの地場産のカレンダーを見つつJAと連絡をとりながら、使える地場産物を献立に盛り込んでいる。ただ、合併前上越市の場合は、7,000人以上の小学生の分が必要であるため、一人10g使うにしても、×7,000人分となり、量が多くなることから、確保が難しい現状もある。一度に使える量が限られて、食材が使えないということもあると思う。
- ・2月はふるさと献立の中から、「大豆コロッケ」を取り上げて、小さいじゃがいもをペーストにしたものを市内の業者にコロッケに加工してもらい、子どもたちに提供した。私も大豆の収穫を取材し、子どもたちにiPadでその様子を見せた。これからも連携して地場産を取り入れる取組を進めていきたい。

#### 【教育総務課：井守栄養士長】

- ・学校給食では、できるだけ地場産物を取り入れようと長い間工夫してきた。例えば、じゃがいもは作れば作るほど小さな規格のものが出てしまうということで、それを無駄にしないように、加工したコロケを作っていたが、学校給食に利用していく取組をここ何年かしている。
- ・平成 24 年に野菜の規格を一度見直している。学校給食はお昼までに必ず作らなければならないため、小さいサイズのものが入ってしまうと、衛生面の対応等で時間内に作ることができないという問題があるが、例えば、じゃがいもであれば、Lと LL サイズだったものをMから LL までは使用可能とした。
- ・合併前上越市の給食については、小学校と中学校で統一献立を栄養教諭が作っているため、主食と牛乳を除き、教育委員会で各学校の野菜を一括発注している。そうになると、かなりの量が必要となり、翌月 1 か月分の食材がどのくらい必要になるか、J Aに情報提供し、毎週教育委員会から J Aに来週使える地場産物を確認し、野菜の発注をしている。
- ・毎年度のことだが、どうしても天候の影響があり、今年度もにんじんや長ねぎが入らないということがあった。その中でも、地場産物を学校給食に取り入れる仕組みは活発になっており、今後も引き続き対応していきたい。

#### 【信田委員】

- ・教育委員会には、本を寄付させていただいたことがあり、どのくらい人数がいて、どのくらい学校があるか存じ上げている。上越市に住んで結構経つが、天候が悪くなるのは当たり前だと思っている。農家と長く付き合っていると作るのが怖いとおっしゃっていて、この件に関して、冷凍カット野菜を作るということがある。いろいろな規定や衛生面の問題もあるので、どこまでクリアできるか分からないが、他地域の取組では、農家にたくさん作ってもらうために冷凍カット工場を作っている。
- ・本当に困ったときに、給食会社は海外のカット野菜を仕入れていると聞いたことがある。もし本当にそうであれば、市で冷凍カット野菜を上越産のもので作っておくという取組でもしない限り、上越は天気が悪いことが多いため、農産物はこれ以上育たない。ほ場を増やすと言っても、生産者は限られている。生産者が新たに増えればいいが、新規参入や代を継いで畑やほ場を継ぐことでどれだけ利益が得られるのかを考えると、やはり新たなことをやらなければならないと思うので、是非期待している。

**【事務局：栗和田課長】**

- ・そういった現状は把握している。作る生産者と使う現場の話し合いの場を設けたい。お互いに状況が分かれば、新しいアイデアも出ると思う。その中で、いかに学校給食で安定して出せるかが重要だと思うので是非引き続きご意見をいただければと思う。

**【小林委員】**

- ・令和4年度アクションプラン進捗管理表の15ページに、健診結果があまり改善されていないということで、例えば、HbA1cやLDLコレステロールの高い方が少し増えていて、これを変化がないという風に見るかもしれないが、この状況を考えたときに、食の観点から、おそらく30～50代に対して、食を選び取る力を育てるには具体的にどうしていけばいいのか。

**【健康づくり推進課：大石栄養士長】**

- ・正直、メタボリックシンドロームはなかなか改善が難しいが、食からのアプローチということでは、健診を受けた方に説明会の会場等で、食生活改善推進員から、その方の一日の適切な食事量を示して、例えば、高血圧であれば減塩調味料を使うとか、野菜の摂取量を増やすこと、メタボリックシンドロームであれば、ごはんや砂糖の量の基準量を示しながら、保健師と栄養士が個別にアドバイスしている。
- ・医療機関との連携という形で、保健師と栄養士が話をして、個別に医療機関につなげることも行っている。

**【小林委員】**

- ・例えば、指導をされた方が普段どこで食事をとるかによって、食事内容をどう選んだらいいかということにつながってくると思うが、個別に指導するのであれば、具体的に食にアプローチできる場所につないでいくとか、減塩の食事が食べられる場所の情報提供があってもいいと思う。

**【健康づくり推進課：大石栄養士長】**

- ・いただいた意見を参考にして活動に反映させたい。

**【大山委員】**

- ・昔から啓発はしている。特に、ハイリスク者に対してピンポイントで指導している。全体に対して指導してもなかなか効果的なことができなかったこともあり、全地区ではないが、一昨年から尿中塩分測定を塩分を多く摂っている方に対して行っている。食事だけでなく運動も重ねあわせる取組が必要となるため、ピンポイントで見つけられる取組

を今後も行っていきたい。

**【松井会長】**

- ・本日予定していた議題は以上となる。事務局へ進行をお返しする。

**(5) 意見交換（各委員の食育に関する思いや活動について）**

**【松井委員】**

- ・アクションプランの中に「子ども食堂」という言葉が出てこない。私が住んでいる地域でも子ども食堂は行われているが、今一つ地域に言葉の意味が浸透していないと感じている。
- ・子ども食堂を担っている人が、私くらいの世代の人が多いのが問題だと思うが、もう少し若い、子育てをしているお母さんくらいの年代の人から料理を作ってもらい、主食・主菜・副菜・味噌汁を揃えて、そこでそのまま食育ができればいいと思う。どうしても、焼きそばやカレーなどがたくさん見受けられるので、そこで食育ができて、少し補助が受けられ、メニューの相談にも乗ってもらえるということがあれば、食育の一つの方法になると思う。新しくいろいろな仕組みが作られている中で、子ども食堂は漏れ落ちていると思う。この会議は、縦でなく横につながっていて、斜めにもつながっている非常にいい会議だと思うので、そういったところもつながっていければと思う。

**【大山委員】**

- ・子ども食堂は、現在アクションプランに載っていないが、こども課が所管である。子ども食堂のそもそものスタートは、貧困対策である。しかし、今いただいた意見は非常に大事だと思う。食を提供するに当たり、貧困対策や飢えだけでなく、地域の活性化など様々な面もある。食育としても大事だと思うので、その辺を広げていくご意見については、承知した。食育のアクションプランに入れることについては、少し議論が必要になるが、子ども食堂を所管しているこども課にそういった視点は必要ということ伝えていく中で、今後の展開を考えていきたい。

**【事務局：高橋副課長】**

- ・委員の皆様から何か情報提供はあるか。
- ・本日皆様からいただいたご意見を今後の食育推進の施策に反映させたいと思う。
- ・6月のイベントの際には、市への情報提供も是非お願いしたい。

## (6) 閉会

【事務局：高橋副課長】

- ・以上で、令和4年度第1回上越市食育推進会議を終了する。

## 8 問合せ先

農林水産部農政課

TEL：025-520-5747

E-mail:nousei@city.joetsu.lg.jp

## 9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。